令和５年度

学校関係者評価書

評価対象期間　　自：令和　５年　４月　１日
　　至：令和　６年　３月３１日

令和６年９月 26 日

中央動物専門学校

学校関係者評価委員会

目　次

１．目的 2
２．学校関係者評価 2
３．評価項目 2
４．組織 2
（１）学校関係者評価委員会 2
（２）任期 2
５．実施 2
６．評価要領 3
７．自己評価概要 3
（１）自己評価項目 3
（２）自己評価結果と改善点の概要 5
８．学校関係者評価結果 9
（１）会議進行 9
（２）評価結果 9
９．総括 9
10．項目別評価結果 12

1. 目的

学生が質の高い実践的な職業教育を教授できるよう、学校運営の改善と発展を目指すため学校評価（自己評価・学校関係者評価）を実施する。

実践的な職業教育を目的とした、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成の適切さ等について評価する。評価結果に基づき、学校として組織的・継続的な改善を図る。

2. 学校関係者評価

卒業生・企業・業界団体等の学校関係者等を選任し、自己評価の結果について評価を行い、改善に向け専門的な助言を行う。

3. 評価項目

・自己評価の内容が適切かどうか
・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
・学校の重点目標や具体的方策等が適切かどうか
・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

4. 組織

（1）学校関係者評価委員会

委　　員：	大野　公嗣	一般社団法人　全日本動物専門教育協会　専務理事
	阿良田由紀	東田端自治会　会長
	飛髙健太郎	タロウ動物病院　院長
	鹿野　正顕	株式会社アニマルライフソリューションズ　代表取締役
	塚本知加江	中央動物専門学校　保護者
	小山田千秋	株式会社スタンダード　取締役
	田中　　淳	中央動物専門学校　卒業生（Pet Salon ＆ Hotel Joli 神楽坂店　店長）

（敬称略・順不同）

（2）任期

委員任期を 2023 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日とする。

5. 実施

令和 6 年 9 月 26 日（木）中央工学校付属日本語学校 5 階教室において、学校関係者評価委員会が開催された。

6. 評価要領

自己評価書を学校関係者評価委員に事前配布し、確認を得た。学校関係者評価委員会を開催し、自己評価結果について説明をしたうえで、学校関係者としての評価を実施した。

なお、会議の進行及び事務については学校が行い、自己評価結果に対する公正な評価に努めた。

7. 自己評価概要

(1)自己評価項目

自己評価項目は、文部科学省による「専修学校における学校評価のガイドライン」に準拠し、本校の実情に合わせ必要な取捨選択を行った。自己評価の項目は次の通り。

ア. 教育理念･目的･育成人材像

①理念・目的・育成人材像は定められているか

②学校における職業教育の特色は何か

③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか

④理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知がなされているか

イ. 学校運営

①目的等に沿った運営方針が策定されているか

②学則・細則・内規等は整備されているか

③業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか

④教育活動に関する情報公開が適切になされているか

⑤情報システム化等による業務の効率化が図られているか

ウ. 教育活動

①各学科のカリキュラムは体系的に編成されているか

②カリキュラムや教育方法の工夫・開発・見直しが適切に行われているか

③授業評価の実施体制はあるか

④資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか

⑤成績評価の基準は明確になっているか

⑥教員資質向上のための研修が行われているか

エ. 教育成果

①就職率の向上が図られているか

②資格取得率の向上が図られているか

③退学率の低減が図られているか

④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されている

か

オ. 学生支援

①進路・就職に関する支援体制は整備されているか

②学生相談に関する体制は整備されているか

③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか

④学生の健康管理を担う組織体制はあるか

⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか

⑥保護者と適切に連携しているか

カ. 教育環境

①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

③防災に対する体制は整備されているか

キ. 学生の募集と受け入れ

①学生募集活動は、適正に行われているか

②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

③入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき、行われているか

④学納金は妥当なものとなっているか

ク. 財務

①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

③財務について会計監査が適正に行われているか

④財務情報公開の体制整備はできているか

ケ. 法令等の遵守

①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

③自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

④自己評価結果を公開しているか

コ. 社会貢献・地域貢献

①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

③地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか

サ. 国際交流（留学生）

①留学生の受け入れについて戦略を持って国際交流を行っているか

②留学生の受け入れ、在席管理等において適切な手続き等がとられているか

③留学生の学習支援について、適切な体制が整備されているか

（２）自己評価結果と改善点の概要

ア. 教育理念・目的・育成人材像

学生及び保護者へは種々の機会をとらえて教育の理念・目的等の浸透に努め、また日々の接触を通じて教職員はその理解度を推し量るべく努めているが、理解不足で入学する学生が若干存在する。更なる理解度向上を図り、本校ＨＰでの訴求や各種イベント等での説明が必要である。

１８歳人口の減少による学生募集を取り巻く環境が厳しさを増してくるなか、社会のニーズに合った学校づくりの継続的な検討は必要である。

本校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などの周知、理解度を向上させるため、これまで同様に、学生へは新入時のオリエンテーションでの指導や授業及び日々のキャンパスライフを通じて機会の増加を図る。

保護者へは学校説明会や保護者会を通じて、企業等へは求人票発送時の資料や合同企業説明会等を通じて、地域社会へは積極的に地元イベントへ参加し、学園祭等学内イベントを通じて、相互理解を図りながら実践的な職業教育の質向上に努める。

更に、学内の情報配信方法や入学前ガイダンス（新入生対象、保護者対象）の実施を検討し、周知徹底、理解度向上を図る。

イ. 学校運営

業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備に関して、学内における動物愛護精神の全職員間の統一化、推進に向けた活動をより活発化する必要がある。

地域・近隣等からの苦情（クレーム）の際の是正処置及び予防処置においては、学内で迅速に対応し、情報共有ができる体制を整備し、全体への周知については以前より迅速化されており、是正処置及び予防処置体制の改善に努めているが、完全になくすということはできていない。

情報システム化による業務の効率化は図られているが、現状では、紙ベースが主流で、クラウド化が遅れている。

前年度に学内で取り扱った校有動物及びモデル犬に関する事例を検証し、動物愛護精神の全職員間の認識、共通理解を図るなど、全職員へ情報提供し、職員の動物に対する倫理感の統一を図っていく。

地域・近隣等からの苦情（クレーム）の際の是正処置及び予防処置においては、学内で都度迅速に対応し、情報共有をしているが、全体への周知及び更なる迅速化徹底化に向けて情報共有の方法を改善する。また、予防処置体制について検討する。

紙ベースでの個人情報の取り扱いについては、今後、PDF 化、デバイスによる運用等を含め、学外での利用が多い学生募集用システムのクラウド化の推進を図っていく。

ウ. 教育活動

授業評価において、学生からの評価は実施されているが、教員による評価が実施されていない。教員相互の授業評価の早期実現で教育活動の質向上が必要である。

教員資質向上のための研修は行われているが、一部の教員のみに留まっており、全職員の意識向上へ啓発が十分でない。また、学生のメンタルケアや若年層が抱える問題対応の研修や情報共有が十分とは言えない。

教員の研修においては、組織的な取り組みをより強化させ、一部強制力を発揮しつつ、教員への積極的な参加を推奨し、教員だけでなく全職員の意識向上の啓発と各種スキルアップの機会増加を図る。

学生のメンタルケアや若年層が抱える問題対応においては、令和３年度から導入した臨床心理士によるカウンセリングの現況、対応事例等を教職員へ共有し、スキルの涵養化を図る。

学内に組織されている「教育評価委員会」の主導のもと、教員の授業評価の仕組みを構築する。評価システムの具体的な検討、モデル実施と検証を行い、令和６年度から本格的な教員相互の授業評価を行う予定。

エ. 教育成果

資格取得率の向上について、今後も「愛玩動物看護師」の合格率向上のための対応策が急務である。

退学率の低減について、学生の資質の低下や学習意欲減少等の要因は、教員の努力で対応しきれない部分もあるが、増加傾向にある学生の精神的な悩みからの退学へのフォロー体制の強化も必要である。

卒業後のキャリア形成への効果の把握においては、卒業後に頻繁に来校する卒業生を中心に把握しているが、全卒業生においては未だに把握できていない。卒業生の動向の把握としては、同窓会と連携し、卒業生対象の研修会等の企画・募集をしているが、応募がない現状にある。卒業生から情報を得る術があまりない。卒業生から学校へアプローチできる仕掛け作りが必要である。

資格取得率、特に「愛玩動物看護師」の合格率向上に向けて、指導スケジュールの早期化、学生への意識涵養等の対策を実施する。

退学率の低減については、特に精神的な問題のある学生相談の援助として、カウンセラー（臨床心理士）を令和３年度から導入、２年が経過し、在籍率向上が図られた。令和６年度よりカウンセラーを１名増員し、学生相談体制を強化する。

卒業後のキャリア形成への効果の掌握については、卒業生の日々の来校者の増加傾向を受けて、収集した卒業生情報を教育活動の改善に反映させる。来校しない卒業生の状況把握の方法については検討する段階で滞り、実施できていない状況にあるため、より具体的に情報を収集する方法を構築することを急務とする。

また、同窓会組織との更なる連携強化を図り、研修会においては卒業生が参加しやすい日程、内容の調査を実施し、卒業生の動向把握や在校生の就職へと繋がるような企画を展開する。

卒業生のアンケート調査を実施し、今後の教育活動の改善へ反映させる。

オ. 学生支援

各担任を中心とした個々の学生との相談体制に加え、精神的カウンセリングに対してカウンセラー（臨床心理士）の需要が高まり、月２回から４回と増加させることとしたが、引き続き現代学生の心理的特徴や傾向を理解したうえでの継続的な相談・支援が必要である。

保護者との連携においては、現状の連絡方法に加え、効率化、迅速化を図るためメールを含む各種ツール活用の検討も必要。

学生からの相談については、カウンセラー（臨床心理士）の常駐が望ましいが、現状ではコスト的に週に一度（月４回）の相談体制であるため、クラス担当教員を含めた教職員全員が学生の相談窓口になり、学生の不安な気持ちの解消に努めるようにする。

保護者との連携は、時代に合ったツール及びその運用方法を検討していく。

カ. 教育環境

防災への対応として、学生・教職員のみならず、校内で飼育している多数の校有動物及び美容実習用モデル犬への対策も考慮する必要がある。あらゆる不測の事態を想定した設備の完備が理想であるが、現状は必要最低限の整備となっている。特に夏季の災害時に校有動物の退避先確保が難しい等、電力が途絶えた時の対応が完全とは言えない。

施設内の避難場所や避難ルートは、教室等の用途変更になった場合はアップデートする必要があるが、現状は変更、その情報を共有されていない。

防災への対策として、校有動物の対応において、停電時の非常照明やフードの備蓄、飲料水や清掃用の水源確保はできているが、夏季に発生する災害を想定し空調設備が稼動しない場合の飼育動物の退避方法を考慮すると、自家発電装置の導入が理想だが、コスト的に厳しく、現存の施設内における退避場所、ルート等の方法を再検討し、緊急時の更なる万全な対応を期する。

教室等学内施設の用途変更の際は、避難ルート等の情報を更新し、職員全体への情報共有を徹底する。

キ. 学生の募集と受け入れ

入学案内書やホームページ、ＳＮＳ等で教育成果を伝えた学生募集活動が実施されているが、ＳＮＳを活用した訴求について更なる実証・検証が必要である。

学生募集において、特に愛犬美容関連科への出願数減少が大きく、回復が急務。

学納金は、金額設定は妥当であるが、入学生数から勘案し学校経営の黒字化に向けて、学費増額の継続的な検討が必要。

ＳＮＳの活用による情報発信の機会増加については、令和４年度に開設したInstagramと従前からのＸ（旧 Twitter）を、主とした情報発信のツールとして活用する。

愛犬美容関連科の募集については、高校内ガイダンスや学内イベントでの説明や魅力の見せ方等を工夫して入学者増加に努める。

１８歳人口減少という厳しい中でも、WEB の活用で広く本校の校名露出の機会増加を

図り、動物分野希望者を掘り出し、志願者の割合を増加させ、入学定員の必達を目標としていく。

ク. 財務

本校における中長期的な財務基盤及び収支の均衡においては、令和４年度は改善され、令和５年度も黒字となったが、継続して中・長期計画により安定的な黒字化に向けた取り組みは必要である。

予算計画においては、学生納付金収入の増加により確実に収支の均衡が取れる盤石な運営組織への改善、学生数確保も含め、継続して学校運営の見直しが必要である。

財政基盤の維持・安定・向上を図るために、一定数以上の入学者を確保し続け、退学・除籍などのドロップアウト対策を強化して改善を図り、学生納付金収入を確保する。

中期事業計画の再精査と、学校・学科・教職員等運営再編計画の立案、学生募集体制（広報体制）の更なる強化を図る。

ケ. 法令等の遵守

個人情報の保護については、ファイヤーウォールの導入やルーター設置等、ウィルスに対する適切な対策がとられているが、悪意を持った外部からのハッキングに対する体制は完全とは言えない部分がある。

ウィルスやハッキング対策においては、最新の情報収集と対策の調査を継続して行い、事例が起きた時には、迅速な対応ができるようにする。

コ. 社会貢献・地域貢献

現状の学生のボランティア活動においては、対象となる学科が限定的であり、全学的な参加体制が望ましい。全学生を対象とした各種ボランティア募集の依頼に際し、速やかに告知はしているが、ボランティアは自発的意思に基づくものであり、学校としては学生へ告知するに留まっている部分もある。

地域に対する公開講座として、学校近隣の飼い主対象の「犬のしつけ方教室」を実施しているが、各種公開講座・教育訓練の受託については、現状の人員では余力がなく、積極的に開発・実施ができていない。

学生のボランティア活動の奨励・支援として、新たに、地域猫活動、ボランティアトリマー等の情報提示や参加支援の検討を行う。また、単位認定や参加費用支援など学校補助の観点からの検討を図る。自発的にボランティア活動を行っている学生は一定数おり、その参加状況や活動の様子を本校ＨＰやＳＮＳ等で発信し、学生の意識付け強化を図る。

地域に対する公開講座・教育訓練の受託については、生涯学習の観点からも対象者を広げて、地域のニーズ調査、実施可能な講座の企画・検討が必要であるが、今後は担当者を明確に定め、より具体的な対策を講じる。

サ. 国際交流（留学生）

留学生の受け入れについては、近年留学生の出願は数件あるものの、日本人の入学希望者の増加と、新型コロナウィルス感染症拡大の影響を受け、日本への外国人の入国が極

めて難しい状況になり、在籍する留学生が減少した。令和４年度は留学生の在籍がゼロになり、令和５年度は２名の入学があったが、１名は経済的な理由により退学した。

募集に関しては、令和６年度以降の日本への入国状況や、都内の日本語学校の在籍状況等を踏まえながら、今後は数年間を想定したうえで、地道な募集活動を展開し、従前の留学生数確保を心がける。

８. 学校関係者評価結果

（１）会議進行

座長・坂本敏校長から、開会挨拶があり、「職業実践専門課程」の認定状況及び学事報告等（概要）について、配布資料に基づき説明をした。

ア. 主査の選任

座長の坂本敏校長が、学校関係者評価委員会主査について説明をした後、大野公嗣委員が各委員の推薦により主査に選任された。

イ. 自己評価結果の報告と質疑応答

自己評価委員会佐藤洋子委員長（教務部長）より、令和５年度業務における自己評価結果について、各評価項目について説明をし、評価結果を示した。

大野公嗣主査を中心に、自己評価項目にそって質疑応答が行われた。質疑応答の後、評価結果及び意見を「評価シート」に記載した。

（２）評価結果（評価の観点4項目に対する評価）

学校関係者による評価の観点に照らし合わせ、学校関係者委員評価委員の評価を得た。

ア. 自己評価の内容が適切かどうか

令和５年度の業務について自己評価書に基づき報告を受け、内容を確認した。概ね妥当な評価結果となっており、自己評価の内容はほぼ適切と判断する。

イ. 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか

ほぼ適切と判断する。

ウ. 学校の重点目標や具体的方策が適切かどうか

令和５年度学校運営計画を確認。基本的運営方針や運営重点項目および運営指針、具体的方策については適切と判断する。

エ. 学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

全体的には概ね適切と判断する。

９. 総括

令和５年度における学校業務について、自己評価結果の報告を受け、学校関係者として評価を行った。全般的に妥当な自己評価結果であると判断した。学校関係者評価の観点４項目と照らし合わせても適切な結果であると総括する。

なお、学校関係者評価委員による各評価項目に対する意見の主なものは次の通り。

① 日本の人口が減少している中で、日本語能力が低いなどの問題で難しいとは思うが、留学生募集の強化をお願いしたい。

⇒留学生に関しては、卒業後日本での就労、就職等の兼ね合いでなかなか難しい状況にある。もし入学検討される留学生がいたら是非紹介をお願いしたい。

② 適切な評価をされていると感じています。動物愛護法の改定により急激に犬の頭数が減ってきており大手の企業は生体販売だけでなく飼い主に専門技術の提供いただくだけでなく、飼い主さんとのコミュニケーション能力などのサポートに力を入れてきている。専門学校の場合には専門技術の基礎の部分を学ぶことが多くなってしまうが、現場との溝のようなものが大きくならないように現場に即した教育をし、即戦力となりうる人材育成を心掛けることにより、企業側から進んで採用してもらえる人材育成を目指していく必要があるのではないか。

⇒コミュニケーション能力については継続して教育の中で取り入れていきたい。

③ 評価の方は適切であると感じています。中央動物専門学校での教員としての経験と、その後卒業生を採用する企業側としての観点から、中央動物専門学校の学生は他校に比べ専門性が高いと感じている。愛玩動物看護師は資格取得も含め、今後も専門性が高くなると職種であると感じている。実際には機器に触れたり、動物に触れたり、作業を行うなどの実務教育が学校で経験できていることが、他校に比べてアドバンテージになっているのではないかと思う。学校や企業に馴染めず退学や退職する人が多い中、カウンセリングなどの対策がなされているのは評価が高い。SNS などを利用し、匿名で相談、悩み事を投稿できるような受け皿があるとなお良いと思う。

⇒メンタル面が弱い学生に対してはカウンセラーの増員をした。ただ SNS でというのはまだ出来ていないので検討していきたい。

④ 評価に関しては適切になされていると思っています。卒業生の現状把握について、他校からインターンシップを依頼された際の評価書の中に、卒業生の在籍状況との項目があった。ぜひ活用してみてはどうか。

⑤ 評価に関してはすべて適切かと思っています。今年、我が子 2 人が無事に就職も決まり感謝申し上げます。2 人とも入学にあたって入学案内書を見て学科選びの際に、愛玩動物看護師は難しそうで、もし愛玩動物看護師になれなかった時に、トリマーの選択肢があるのか、ということも念頭において検討していた。看護科３年次のカリキュラムに美容実習の選択科目があり、トリマーの初級以上が目指せるのではないかと期待していたのですが、３年次のカリキュラムが変更になったのはとても残念ではあったが、今となっては愛玩動物看護師資格取得に向けての勉強でそれどころではない状況のため結果的に良かったと思っている。

⇒愛玩動物看護師の受験体制と受験資格の詳細の発表がされた翌年のためカリキュ

ラム変更に至った経緯があり、何卒ご容赦願いたい。

⑥　評価に関しましては謙虚に、適切に評価されています。地域や町会として一番気になるところは防災対策なのですが、「動物と共生する区民の会」を立ち上げる準備会において、わんわん避難訓練のようなものを今後考えていきたいと思っており、北区からの要望に関しても、学校とは情報共有し合って出来ること、出来ないことも含めて今後とも協力していければと思います。

⇒昨年新たに就任された北区長より動物学校を拠点に同行非難をするのに口頭ではあるが協力依頼があり、現在北区や獣医師会などと連携している状況。

⑦　全ての項目におきまして適切であると評価させていただいた。今後の課題で上がっていた２－３のコンプライアンスの体制について、クレーム対応についてはゼロを目指すのは無理であると思いますので、クレーム発生後の対応が出来ているのであれば、３ではなく４でも良いのではないかと感じた。３－６の教員の資質向上のための研修は非常に大事で、いろいろな専門学校で教職員の資質低下というところが課題であるという話はよく聞き、協会としても教員の資質向上の研修支援をするケースも増えている。中央動物専門学校も３が２になることなく４を目指していただければと感じています。最後に１０－３地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているかについて、専門学校として地域に貢献できるような人材の育成と、学校としての地域貢献が大事なので、３ではなく４を目指せるように頑張っていただければと思います。

⇒クレーム対応や教員の資質向上につきましては協会様のご協力を賜りたいと思います。

10. 項目別評価結果

（1）教育理念・目的・育成人材像

	評　価　項　目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1			
1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか	4	3	2	1
1-2	学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知がなされているか	4	3	2	1

学校関係者評価結果	適切　○○○○○○○	不適切

【自由記述】

（２）学校運営

	評　価　項　目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	[4]　3　2　1
2-2	学則・細則・内規等は整備されているか	[4]　3　2　1
2-3	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4　[3]　2　1
2-4	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	[4]　3　2　1
2-5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4　[3]　2　1

学校関係者評価結果	適切　○○○○○○○	不適切

【自由記述】

（3）教育活動

	評　価　項　目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1			
3-1	各学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	[4]	3	2	1
3-2	カリキュラムや教育方法の工夫・開発・見直しが適切に行われているか	[4]	3	2	1
3-3	授業評価の実施体制はあるか	[4]	3	2	1
3-4	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	[4]	3	2	1
3-5	成績評価の基準は明確になっているか	[4]	3	2	1
3-6	教員資質向上のための研修が行われているか	4	[3]	2	1

学校関係者評価結果	適切　○○○○○○○	不適切

【自由記述】

（4）教育成果

4-1	就職率の向上が図られているか	$\boxed{4}$	3	2	1
4-2	資格取得率の向上が図られているか	4	$\boxed{3}$	2	1
4-3	退学率の低減が図られているか	4	$\boxed{3}$	2	1
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	$\boxed{3}$	2	1
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	$\boxed{4}$	3	2	1

学校関係者評価結果	適切　○○○○○○○	不適切

【自由記述】

（5）学生支援

	評　価　項　目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1			
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
5-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-6	保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1

学校関係者評価結果	適切　○○○○○○○	不適切

【自由記述】

（6）教育環境

	評　価　項　目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1			
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
6-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
6-3	防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

学校関係者評価結果	適切　○○○○○○○	不適切

【自由記述】

（7）学生の募集と受け入れ

	評　価　項　目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1
7-1	学生募集活動は、適正に行われているか	[4]　3　2　1
7-2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	[4]　3　2　1
7-3	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき、行われているか	[4]　3　2　1
7-4	学納金は妥当なものとなっているか	[4]　3　2　1

学校関係者評価結果	適切　○○○○○○○	不適切

【自由記述】

（８）財務

	評　価　項　目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1			
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

学校関係者評価結果	適切　○○○○○○○	不適切

【自由記述】

（9）法令等の遵守

	評　価　項　目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1
9-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	[4]　3　2　1
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	[4]　3　2　1
9-3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	[4]　3　2　1
9-4	自己評価結果を公開しているか	[4]　3　2　1

学校関係者評価結果	適切　○○○○○○○	不適切

【自由記述】

（10）社会貢献・地域貢献

	評　価　項　目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1			
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	[4]	3	2	1
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	[3]	2	1
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4	[3]	2	1

学校関係者評価結果	適切　○○○○○○○	不適切

【自由記述】

（11）国際交流（留学生）

	評　価　項　目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1
11-1	留学生の受け入れについて戦略を持って行っているか	[4]　3　2　1
11-2	留学生の受け入れ、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	[4]　3　2　1
11-3	留学生の学習支援について、適切な体制が整備されているか	[4]　3　2　1

学校関係者評価結果	適切　○○○○○○○	不適切

【自由記述】